

科目名	基礎演習	科目コード	N10001
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	時間割(学生記入)	
担当教員	片桐 康雄		
概要	<p>「基礎演習」では、大学生として積極的に学習する態度を養い、自主的な学習能力の修得を目的とする。</p> <p>1名の教員が学生7～8名を担当する小グループ演習であり、学生参加型学習である。教員の助言・指導のもとに、個々の学生が興味・関心のあるテーマを発表し、グループ全体のディスカッションを経て、グループテーマへ発展させる。そのテーマについて、各自が文献検索を行い、科学的に調査分析して、結果を自らの言葉で表現し、論理的に考察する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各自がテーマを見つけて持ち寄り、グループで学習テーマを決めて、文献を調べ、互いに討論し、各自がレポートを作成し、発表できる。 2. グループ討議で各自が自らの考えを述べることができる。 3. 自ら学び、自ら考え、自らの言葉で表現できる。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 隣人紹介、チュートリアル型グループ学習とは、問題解決型学習とは、グループダイナミクスとは ● 「課題」を決める。課題は学生同士の話し合いで決める。社会的、科学的知識が得られる内容がふさわしい。医学、看護学にこだわる必要はない。 ● 一つの課題は3～4回程度で解決することを目標とする。 ● 課題を学習する中で自己学習法、討論のしかたを学び、全員が均等に発言するよう全員が注意をはらい努力することが必要となる。 ● 時間内に簡潔なレポートを書く。 		
評価方法	毎回の発表 30%、討論 50%、レポート 20%などで総合的に判断する。		
教材・教科書	なし		
留意点	課題について各自単独に調べてくること。「基礎演習」および「ヒログク教養講話」は全出席を原則とする。		

科目名	基礎演習	科目コード	N10002
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	時間割(学生記入)	
担当教員	楡引 美代子		
概要	<p>「基礎演習」では、大学生として積極的に学習する態度を養い、自主的な学習能力の修得を目的とする。</p> <p>1名の教員が学生7～8名を担当する小グループ演習であり、学生参加型学習である。教員の助言・指導のもとに、個々の学生が興味・関心のあるテーマを発表し、グループ全体のディスカッションを経て、グループテーマへ発展させる。そのテーマについて、各自が文献検索を行い、科学的に調査分析して、結果を自らの言葉で表現し、論理的に考察する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各自がテーマを見つけて持ち寄り、グループで学習テーマを決めて、文献を調べ、互いに討論し、各自がレポートを作成し、発表できる。 2. グループ討議で各自が自らの考えを述べることができる。 3. 自ら学び、自ら考え、自らの言葉で表現できる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション。自己紹介 2.テーマの決定(予め、全員が文献を調べ、それを提示して意見交換をする) 3.テーマに基づいて各自がレポートを作成し、発表する。全員で討議する。 4.テーマに基づいて各自がレポートを作成し、発表する。全員で討議する。 5.テーマに基づいて各自がレポートを作成し、発表する。全員で討議する。 6.テーマに基づいて各自がレポートを作成し、発表する。全員で討議する。 7.テーマに基づいて各自がレポートを作成し、発表する。全員で討議する。 8.テーマに基づいて各自がレポートを作成し、発表する。全員で討議する。 9.テーマに基づいて各自がレポートを作成し、発表する。全員で討議する。 10.テーマに基づいて各自がレポートを作成し、発表する。全員で討議する。 11.テーマに基づいて各自がレポートを作成し、発表する。全員で討議する。 12.テーマに基づいて各自がレポートを作成し、発表する。全員で討議する。 13.テーマに基づいて各自がレポートを作成し、発表する。全員で討議する。 14.各自がテーマに関する集大成のレポートを作成し、発表する。発表について、全員で討議する。 15.各自がテーマに関する集大成のレポートを作成し、発表する。発表について、全員で討議する。 		
評価方法	出席状況(ヒロガク教養講話を含む)、学習内容、発表、レポートを総合的に評価する。		
教材・教科書	適宜紹介する。		
留意点	「基礎演習」および「ヒロガク教養講話」は全出席を原則とする。発表時には資料を準備して、全員に配布する。		

科目名	基礎演習	科目コード	N10003
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	時間割(学生記入)	
担当教員	福岡 裕美子		
概要	<p>「基礎演習」では、大学生として積極的に学習する態度を養い、自主的な学習能力の修得を目的とする。</p> <p>1名の教員が学生7～8名を担当する小グループ演習であり、学生参加型学習である。教員の助言・指導のもとに、個々の学生が興味・関心のあるテーマを発表し、グループ全体のディスカッションを経て、グループテーマへ発展させる。そのテーマについて、各自が文献検索を行い、科学的に調査分析して、結果を自らの言葉で表現し、論理的に考察する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 各自がテーマを見つけて持ち寄り、グループで学習テーマを決めて、文献を調べ、互いに討論し、各自がレポートを作成し、発表できる。 グループ討議で各自が自らの考えを述べることができる。 自ら学び、自ら考え、自らの言葉で表現できる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 授業オリエンテーション: 自己紹介 授業の目標や進め方について理解する。(*学生便覧とシラバス持参) 3. 課題の発見と課題に関する資料の調べ方 4-5. 要約の方法 6-7. 要約した内容の発表 8-10. 課題レポートの作成 各自がテーマを決めて持ち寄り、プレゼンテーションとディスカッションを行いレポートを作成する。 11-14. グループワーク 小グループに分かれて、テーマに沿って調査活動を行う <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内でのテーマの決定 ・活動計画立案 ・調査活動 ・レポートならびにプレゼンテーション資料の作成 15. プレゼンテーション 		
評価方法	出席状況(ヒログク教養講話を含む)10%、発表 30%、レポート 30%、グループワークへの参加態度 30%を総合的に評価する。		
教材・教科書	指定参考書:「大学基礎講座」(改増版)北大路書房(各自購入を薦める)		
留意点	「基礎演習」および「ヒログク教養講話」は全出席を原則とする。		

科目名	基礎演習	科目コード	N10004
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	時間割(学生記入)	
担当教員	三上 聖治		
概要	<p>「基礎演習」では、大学生として積極的に学習する態度を養い、自主的な学習能力の修得を目的とする。</p> <p>1名の教員が学生7～8名を担当する小グループ演習であり、学生参加型学習である。教員の助言・指導のもとに、個々の学生が興味・関心のあるテーマを発表し、グループ全体のディスカッションを経て、グループテーマへ発展させる。そのテーマについて、各自が文献検索を行い、科学的に調査分析して、結果を自らの言葉で表現し、論理的に考察する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各自がテーマを見つけて持ち寄り、グループで学習テーマを決めて、文献を調べ、互いに討論し、各自がレポートを作成し、発表できる。 2. グループ討議で各自が自らの考えを述べることができる。 3. 自ら学び、自ら考え、自らの言葉で表現できる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生便覧とシラバスから履修科目にランクをつけてみましょう。 2. 弘前学院大学の学生が使える資源について調べてみましょう。 3. 大学4年間で培う自分の能力を確認しましょう。 4. 大学4年間での経費を計算してみましょう。 5. 姉妹校について調べてみましょう。 6. 看護師資格取得に必要な知識、コースについて調べてみましょう。 7. 看護師についての法律を調べてみましょう。 8. 看護師ができることとできないことを調べてみましょう。 9. 医療職について調べてみましょう。 10. 日本語の論文を読んでみましょう。 11. 日本語の論文からわからない用語を抜き出してみましょう。 12. 外国語の論文を読んでみましょう。 13. 論文を読むための必要な知識をまとめてみましょう。 14. 弘学講和の内容をまとめてみましょう。 15. コミュニケーション能力について語ってみましょう 		
評価方法	学習内容の発表(40%)、レポート(60%)		
教材・教科書	教材適宜・教科書は使用しない。		
留意点	「基礎演習」および「ヒロガク教養講話」は全出席を原則とする。		

科目名	基礎演習	科目コード	N10005
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	時間割(学生記入)	
担当教員	加賀谷 紀子		
概要	<p>「基礎演習」では、大学生として積極的に学習する態度を養い、自主的な学習能力の修得を目的とする。</p> <p>1名の教員が学生7～8名を担当する小グループ演習であり、学生参加型学習である。教員の助言・指導のもとに、個々の学生が興味・関心のあるテーマを発表し、グループ全体のディスカッションを経て、グループテーマへ発展させる。そのテーマについて、各自が文献検索を行い、科学的に調査分析して、結果を自らの言葉で表現し、論理的に考察する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 各自がテーマを見つけて持ち寄り、グループで学習テーマを決めて、文献を調べ、互いに討論し、各自がレポートを作成し、発表できる。 グループ討議で各自が自らの考えを述べることができる。 自ら学び、自ら考え、自らの言葉で表現できる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 基礎演習についての進め方の説明 (学生がテーマを選び、併せて文献、方法を自分達で考える。) 学生が考えたテーマについて(3題)ー全員でテーマの検討と文献検索 グループでテーマに応じた文献検索と、文献の抄読およびグループ討議と個人によるレポート提出① 〃 ② 〃 ③ 〃 ④ グループでテーマに応じた文献検索と、文献の抄読およびグループ討議と個人によるレポート提出① 〃 ② 〃 ③ 〃 ④ グループでテーマに応じた文献検索と、文献の抄読およびグループ討議と個人によるレポート提出① 〃 ② 〃 ③ 〃 ④ 全体のまとめ、個人の発表 基礎演習で何を学んだかー最終レポート 		
評価方法	出席状況(ヒロガク教養講話を含む)、学習内容、発表、レポートを総合的に評価する。		
教材・教科書			
留意点	「基礎演習」および「ヒロガク教養講話」は全員出席を原則とする。		

科目名	基礎演習	科目コード	N10006
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	時間割(学生記入)	
担当教員	高田 まり子		
概要	<p>「基礎演習」では、大学生として積極的に学習する態度を養い、自主的な学習能力の修得を目的とする。</p> <p>1名の教員が学生7～8名を担当する小グループ演習であり、学生参加型学習である。教員の助言・指導のもとに、個々の学生が興味・関心のあるテーマを発表し、グループ全体のディスカッションを経て、グループテーマへ発展させる。そのテーマについて、各自が文献検索を行い、科学的に調査分析して、結果を自らの言葉で表現し、論理的に考察する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各自がテーマを見つけて持ち寄り、グループで学習テーマを決めて、文献を調べ、互いに討論し、各自がレポートを作成し、発表できる。 2. グループ討議で各自が自らの考えを述べることができる。 3. 自ら学び、自ら考え、自らの言葉で表現できる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション他 <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介(一人3分の持ち時間で自己紹介する。原則として、自分の好きな部分・自慢できることを必ず加えて紹介する) ・授業の進め方(各役割含む) ・学習資料の整理 2. レポートの書き方 3. レポートの書き方 4. 図書館・インターネットで文献を検索する。 5. 検索した文献について、動機・文献の要約・学び等レポートにまとめる。 6. レポートに対する意見交換 7. レポートに対する意見交換 8～15. グループでテーマを決定し調べ、発表までを演習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ決定のためのディスカッション ・文献検索 ・文献抄読 ・レポート ・発表 ・ディスカッション 		
評価方法	出席状況(ヒロガク教養講話を含む)、学習内容、発表、レポートを総合的に評価する。		
教材・教科書	教材適宜・教科書は使用しない。		
留意点	「基礎演習」および「ヒロガク教養講話」は全出席を原則とする。		

科目名	基礎演習	科目コード	N10007
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	時間割(学生記入)	
担当教員	片桐 展子		
概要	<p>「基礎演習」では、大学生として積極的に学習する態度を養い、自主的な学習能力の修得を目的とする。</p> <p>1名の教員が学生7～8名を担当する小グループ演習であり、学生参加型学習である。教員の助言・指導のもとに、個々の学生が興味・関心のあるテーマを発表し、グループ全体のディスカッションを経て、グループテーマへ発展させる。そのテーマについて、各自が文献検索を行い、科学的に調査分析して、結果を自らの言葉で表現し、論理的に考察する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各自がテーマを見つけて持ち寄り、グループで学習テーマを決めて、文献を調べ、互いに討論し、各自がレポートを作成し、発表できる。 2. グループ討議で各自が自らの考えを述べることができる。 3. 自ら学び、自ら考え、自らの言葉で表現できる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンバー紹介。基礎演習について、ジェンダーについて。 2. ものの見方1. 表面、諸断面をみて立体的にとらえる。 3. ものの見方2. レポートの書き方。 4. 学習テーマ(各自のサブテーマとグループテーマ)の選定。 テーマの解決方法、取り組み方など。 5. 学習内容の話し合い1. 文献を探す(図書館の利用) 6. 学習内容の話し合い2. 各自の学習内容の発表、質疑応答。 「ものの見方」のレポートの評価、反省。 7. 学習内容の話し合い3. レポートの書き方について、 「ものの見方」のレポートを参照。 8. 学習内容の話し合い4. 各自の学習内容の発表、質疑応答 9. 中間発表。各自の学習内容の中間報告、学習内容の追加や調査項目の検討。 レポート内容、発表方法について話し合う。 10. 学習内容の話し合い5. 全員で各自のレポートを持ち寄り、評価、問題点の解決方法。 11. 発表1. 各自のテーマをまとめて発表。 12. 発表2. グループテーマのまとめと発表。 各自の学習内容レポートの提出。 13. グループテーマに関連した内容の英文の文献を読む。 14. 全体のまとめ。 		
評価方法	出席状況(ヒログク教養講話を含む)、学習参加程度30%、発表30%、レポート40%を総合的に評価する。		
教材・教科書	適宜		
留意点	「基礎演習」および「ヒログク教養講話」は全出席を原則とする。		

科目名	基礎演習	科目コード	N10008
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	時間割(学生記入)	
担当教員	川村 泰子		
概要	<p>「基礎演習」では、大学生として積極的に学習する態度を養い、自主的な学習能力の修得を目的とする。</p> <p>1名の教員が学生7～8名を担当する小グループ演習であり、学生参加型学習である。教員の助言・指導のもとに、個々の学生が興味・関心のあるテーマを発表し、グループ全体のディスカッションを経て、グループテーマへ発展させる。そのテーマについて、各自が文献検索を行い、科学的に調査分析して、結果を自らの言葉で表現し、論理的に考察する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 各自がテーマを見つけて持ち寄り、グループで学習テーマを決めて、文献を調べ、互いに討論し、各自がレポートを作成し、発表できる。 グループ討議で各自が自らの考えを述べることができる。 自ら学び、自ら考え、自らの言葉で表現できる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 授業の進め方、自己紹介 ものの見方・考え方 ～8. 課題テーマの中から各自の関心のテーマを決める。 <ul style="list-style-type: none"> ・文献の検索 ・文献の読み方 ・レポートの書き方 ・発表 ・ディスカッション ～15. 各自の関心のテーマを決める <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション ・文献検索 ・レポート ・検討 ・発表 ・まとめ 		
評価方法	出席状況(ヒログク教養講話を含む) 20%、学習内容 30%、発表 20%、レポート 30%を総合的に評価する。		
教材・教科書	教材適宜紹介する。		
留意点	「基礎演習」および「ヒログク教養講話」は全出席を原則とする。		

科目名	基礎演習	科目コード	N10009
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	時間割(学生記入)	
担当教員	工藤 千賀子		
概要	<p>「基礎演習」では、大学生として積極的に学習する態度を養い、自主的な学習能力の修得を目的とする。</p> <p>1名の教員が学生7～8名を担当する小グループ演習であり、学生参加型学習である。教員の助言・指導のもとに、個々の学生が興味・関心のあるテーマを発表し、グループ全体のディスカッションを経て、グループテーマへ発展させる。そのテーマについて、各自が文献検索を行い、科学的に調査分析して、結果を自らの言葉で表現し、論理的に考察する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各自がテーマを見つけて持ち寄り、グループで学習テーマを決めて、文献を調べ、互いに討論し、各自がレポートを作成し、発表できる。 2. グループ討議で各自が自らの考えを述べることができる。 3. 自ら学び、自ら考え、自らの言葉で表現できる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションと自己紹介 2. 予め文献を調べ、調べた内容を提示して討議をし、テーマを決定する 3.) 4.) 5.) 6.) 7.) 8.) 9.) 10.) 11.) 12.) 13.) 14.) 15. 各自が学んだ内容をまとめ、発表し、討議する <p>・情報源を明確にし、情報収集をする</p> <p>・レポートを作成し、各自が調べてきた内容を発表する</p> <p>・発表に対して、グループで討議する</p>		
評価方法	出席状況(ヒロガク教養講話を含む)(10%)、発表・討議(50%)、レポート(40%)		
教材・教科書	適宜紹介する		
留意点	「基礎演習」および「ヒロガク教養講話」は全出席を原則とする。		

科目名	基礎演習	科目コード	N10010
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	時間割(学生記入)	
担当教員	新田 純子		
概要	<p>「基礎演習」では、大学生として積極的に学習する態度を養い、自主的な学習能力の修得を目的とする。</p> <p>1名の教員が学生7~8名を担当する小グループ演習であり、学生参加型学習である。教員の助言・指導のもとに、個々の学生が興味・関心のあるテーマを発表し、グループ全体のディスカッションを経て、グループテーマへ発展させる。そのテーマについて、各自が文献検索を行い、科学的に調査分析して、結果を自らの言葉で表現し、論理的に考察する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 各自がテーマを見つけて持ち寄り、グループで学習テーマを決めて、文献を調べ、互いに討論し、各自がレポートを作成し、発表できる。 グループ討議で各自が自らの考えを述べることができる。 自ら学び、自ら考え、自らの言葉で表現できる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 授業オリエンテーション：*学生便覧を持参すること。 <ul style="list-style-type: none"> 自己紹介し、グループメンバーと知り合う。 基礎演習の目標や進め方について理解し、各自の目標を明確にする。 授業ノートのづくり方の検討： <ul style="list-style-type: none"> 各自の授業ノートや資料を参考に、効果的な授業ノートのづくり方について検討する。 3~9. 資料の要約と課題レポートの作成： <ul style="list-style-type: none"> 各自が資料を要約し、発表・意見交換を行う。 各自がテーマを決めてレポートを作成し、発表・意見交換を行う。 情報を理解するための読み方、要約の仕方を学ぶ。 情報が正しいか自分で考え、考えを表現することを学ぶ。 情報を効率良く収集する方法(文献検索)を学ぶ。 レポートの書き方の基本を学ぶ。 調べたいことを明確にし、それについて調べてまとめる過程を学ぶ。 意見交換を通じてものの見方を広げる。 10~13. グループワーク： <ul style="list-style-type: none"> 小グループに分かれ、テーマを決めて調査活動を行い、レポートを作成する。 テーマ決定から活動計画立案、調査活動、レポート作成までのプロセスを学ぶ。 14~15. 発表： <ul style="list-style-type: none"> グループごとに調査報告について発表し、意見交換を行う。 効果的な発表の仕方を学ぶ。 		
評価方法	評価の比率；出席状況(ヒログク教養講話を含む)10%、発表・討議内容40%、レポート50%。		
教材・教科書	指定参考書：「大学基礎講座」(改増版)北大路書房(各自購入を薦める。)		
留意点	「基礎演習」および「ヒログク教養講話」は全出席を原則とする。		

科目名	キリスト教概論	科目コード	N11001
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	楊尚眞		
概要	<p>[キーワード: キリスト教の本質、キリストの生涯]</p> <p>キリスト教の本質を学び、理解することにおいて、その研究対象は、古代・中世・近世・現代のキリスト教の歴史、聖書・信条・キリスト教思想である。本科目授業において、イエス・キリストの生涯を中心にキリスト教の本質を学ぶ。</p>		
到達目標	<p>キリスト教を学び、理解することを通して、本学の建学精神である「畏神愛人」という生き方を多面的に探求する。また、キリスト教信仰と文化を幅広く理解し、人間とは何なのかを一層深く理解する態度を養い、理解する主体である「自分」を内省する視点を獲得することを目標にしている。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神の言葉である聖書 2. 神の子イエス・キリスト① 3. 神の子イエス・キリスト② 4. 神の子イエス・キリスト③ 5. 神の子イエス・キリスト④ 6. キリストの神 7. 神の霊である聖霊 8. 三位一体論 9. キリストの体なる教会 10. 天国論と地獄論 11. 天使論と悪魔論 12. キリスト教人間論 13. キリスト教信仰 14. キリスト教礼拝 15. まとめ 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 期末試験 (25点) 2. 講義出席(25点) 3. 礼拝出席(25点) 4. 礼拝感想文(25点) 		
教材・教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 聖書 2. キリスト教概説(楊尚眞著) 		
留意点	私語禁止、2. 遅刻禁止 3. 質問奨励		

科目名	キリスト教倫理	科目コード	N11002
対象学年	2年	開講学期	後期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	楊尚眞		
概要	<p>キリスト教倫理を学び、理解することは単に知的認識にとどまらず、その人の考え方、生き方や態度に影響を及ぼす。聖書を通して、神を知り、神の真理を知ることが、人間側に全人格的な経験と関係と呼び起こし、神の意思に向けて決断を迫る生きた返答を生み出す。私たちの周囲に起こる様々な現代の社会問題に目を向け、それらの諸問題に対して、キリスト教的な思考と解答を生み出すことによって、創造主である神の前にて、責任のある倫理的な生を生きる。本科目授業では、聖書の教えに基づいて、現代の社会問題を捉え、キリスト教的な解答を迫及すること試みる。</p>		
到達目標	<p>神は、人間を自由な存在として創造し、人間は自由意思をもって生きる存在であるが、人間が神を知り、神を畏れ、歴史の中で働く生きた神との関係に入り、生活のあらゆる領域において倫理的な決断をすることを求める。本学の建学精神である「畏神愛人」の「畏神」は神に対しての关系的経験的な知り方意味する。「神を畏れることは、知恵の初め」(箴言1:7)とあるように、この世のすべての問題解決への真の知恵である聖書的価値観を学ぶこと、さらに、学習者の思考形成、人間形成に寄与することを目標とする。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教倫理とは何か 2. イエスの倫理 3. 生命倫理① 4. 生命倫理② 5. 生命倫理③ 6. 自然環境保護問題 7. 性倫理 8. 結婚と離婚問題 9. 暴力問題 10. 戦争と平和問題 11. 貧困問題 12. ホームレス問題 13. 人権問題①(老人・障害者・病人) 14. 人権問題②(児童・青少年) 15. まとめ 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 期末試験(25点) 2. 講義出席(25点) 3. 礼拝出席(25点) 4. 礼拝感想文(25点) 		
教材・教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 聖書 2. キリスト教倫理概説(楊尚眞著) 		
留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 私語禁止 2. 遅刻禁止 3. 質問奨励 		

科目名	憲法と法	科目コード	N11003
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	大野 拓哉		
概要	<p>[キーワード: 法、道徳、習俗、社会規範]</p> <p>本講では、「法」という名の社会のルール(社会規範)について、他の社会規範とも比較しつつ、法規範自体の特色や存在形態などに関する概括的な理解の形成を目指す。</p>		
到達目標	<p>自立した一個人として「法」と向き合い、「法」を用いていける基礎を築くことはもとより、将来、援助者として不利な立場の人々と関わる際に、それらの人々の権利や利益を適切に擁護し得る基礎としての知識や理解の形成を目指す。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「法」と他の社会規範 2. 「法」と道徳 3. 「法」と習俗 4. 法規範の特色 5. 法規範の社会における役割 6. 法規範の構造 7. 法の分類① 8. 法の分類② 9. 法源について 10. 制定法 11. 慣習法 12. 判例法 13. 判例法の生成 14. 条理 15. まとめと振り返り 		
評価方法	試験(100%)のみを評価の対象とする。		
教材・教科書	五十嵐清『法学入門』悠々社		
留意点	法律の条文等をその場で参照できるように六法類などを常に持参すること。		

科目名	経済学	科目コード	N11004
対象学年	2年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	福田 進治		
概要	<p>[キーワード: 経済学入門、経済学史、経済思想]</p> <p>近世以降のヨーロッパ経済の歴史と経済学の歴史を学び、著名な経済学者(アダム・スミス、リカード、マルクス、マーシャル、ケインズ)の議論を追いながら、経済学の基本的な考え方を身に付けます。</p>		
到達目標	経済学の基本的課題、基本的概念、基本的主張を理解することを目指します。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 重商主義の時代 3. 市場メカニズム 4. 小さな国家 5. 産業革命の時代 6. 国際貿易の原理 7. 階級闘争の時代 8. 資本主義の本質 9. 資本主義の歴史 10. ヴィクトリア時代 11. 市場均衡の理論 12. 大恐慌の時代 13. 失業の原因 14. 福祉国家の形成 15. まとめ 		
評価方法	出席状況・受講態度(50点)と期末試験(50点)によって評価します。		
教材・教科書	(参考書) 八木紀一郎『経済思想』(第2版)日本経済新聞出版社、2011年		
留意点			

科目名	社会学	科目コード	N11005
対象学年	1年	開講学期	後期 30時間
必修・選択	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	藤岡 真之		
概要	地域社会、家族、雇用問題、社会格差などといった、現在の日本社会が抱える社会問題を社会学的な観点から学ぶことで、現在の私たちが置かれている場を広い視野から理解する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな社会問題に関心をもつこと ・さまざまな社会問題を、よりクリアーに、より深く理解できるようになること ・社会学の知識を用いて社会現象を理解するセンスを磨くこと 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会学的なものの見方(1) 2. 社会学的なものの見方(2) 3. 経済の変化とくらし(1) —戦後社会の経済成長 4. 経済の変化とくらし(2) —南北問題と環境問題 5. 地域社会の変化と「地域づくり」 6. 働く人の現状と雇用システムの変化 7. 若者と仕事 8. 格差社会 9. 生きがいと高齢者問題 10. 人の移動と人口問題 11. 家族とジェンダー 12. 社会的排除と貧困 13. 包摂と社会的排除 14. 価値と道徳 15. まとめ 		
評価方法	出席 20%、試験 80%		
教材・教科書	今泉礼右編『グローバル時代の社会学—社会学の視点で読み解く現代社会の様相』株式会社みらい		
留意点			

科目名	歴史学	科目コード	N11006
対象学年	2年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	遠藤 ゆり子		
概要	日本の前近代社会を考察対象として、現代の社会福祉・医療・看護に相当する諸問題に、人々が如何にして対応してきたかを検討する。		
到達目標	<p>*前近代社会の歴史的特色を理解する。</p> <p>*前近代社会の社会福祉・医療・看護について学び、現代社会の課題を考える力を養う。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 飢饉・災害・戦争・疫病の歴史① 3. 飢饉・災害・戦争・疫病の歴史② 4. 飢饉・災害・戦争・疫病の歴史③ 5. 飢饉・災害・戦争・疫病の歴史④ 6. 近世の飢饉① 7. 近世の飢饉② 8. 近世の飢饉③ 9. 近世の飢饉④ 10. 前近代の医療・看護① 11. 前近代の医療・看護② 12. 前近代の医療・看護③ 13. 前近代の医療・看護④ 14. 前近代の老人観 15. まとめ 		
評価方法	コメントカード(10点)、報告(20点)、小テスト(20点)、期末試験(50点)		
教材・教科書	適宜、プリントなどを配布し、参考文献を紹介する。		
留意点	報告のための予習を必要とする。		

科目名	教育学	科目コード	N11007
対象学年	2年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	須川 公央		
概要	<p>〔キーワード：教育の両義性、教育空間、教育と政治〕</p> <p>本講義は、科目名にもあるように、教育を原理的に捉え直すことを目的とするものである。そもそも教育とは何であるのか、あるいは教えることと学ぶことはどういう関係にあるのか等々、我々が何気なしにこれまで受けてきた「教育」という営みを徹底解剖し、その内実を深く原理論的な観点から考えていくことにしたい。</p>		
到達目標	<p>教育の機能、目的、方法についての基本的な考えを理解し、昨今の学校教育をめぐる病理・課題について、自分なりに深く考えることができるようにする。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 「教える」と「学ぶ」ということ：ヘレン・ケラーは何を学んだか 3. 教育の両義性：『魂の迫害者』を読む 4. 教育空間論：教育空間の基本構造とその歴史的変容 5. 教育の臨界（1）：「夜回り先生」の実践について考える 6. 教育の臨界（2）：「ぶたのPちゃんと32人の小学生」の実践から 7. 教育と政治（1）：「職員室に言論の自由を」より 8. 教育と政治（2）：「愛国心教育」について考える 9. ケアリングと教育：武蔵野東技能高等専修学校の実践から 10. 教育と階層格差：教育の再生産機能について考える 11. 学力問題とは何か 12. 教育方法論：教師はどのようにして教育を行っているのか 13. いじめ問題について考える：いじめの実態とそのメカニズム 14. 学校教育の新たなるかたち：シュタイナー教育の実践から 15. これまでの振り返り 		
評価方法	<p>出席状況（25点）およびレポートの結果（75点）を総合的に勘案して評価する。なお出席回数が3分の2に満たない場合は、自動的に不可とする。</p>		
教材・教科書	<p>主にプリント資料を中心とした講義形式で授業を進める。テーマによっては、視聴覚教材（DVD）なども使用する予定である。</p>		
留意点			

科目名	心理学	科目コード	N11008
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	佐々木 正晴		
概要	<p>[キーワード：心理学史，感覚・知覚，欲求・行動，脳・心，言語・思考]</p> <p>人間行動の基礎過程である心の活動を探索する。心理学研究史を概観し，その意義，方法論を探り，次いで，看護活動や福祉活動など現場領域を視野に入れ，脳と心の関係，感覚・知覚，欲求・行動の成り立ちを探る。同時に，学習・記憶，言語・思考，情動・動機づけ，発達・学習，パーソナリティ，対人関係・社会行動など，実験論文を通して，人間行動を総合的に探索する。</p>		
到達目標	心の活動の成長・形成過程について，その命題・結論をわれわれひとり一人が見出すこと。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の歴史と方法 2. 心の活動のおおざっぱな定義 3. 感覚・知覚の世界：逆さに見える世界 4. 初めて見る世界 5. 記憶のメカニズム：記憶術名人の苦悩 6. 言語の成立と機能：ことばをうまく話せないこどもたち 7. 欲求，意欲，希望：学習意欲が失われるとき 8. 学習意欲が成り立つとき 9. 情動，感性，動機：気持ちが芽生える瞬間を促す出来事 10. 発達，学習，操作：働きかけると機能が形成する 11. 性格・人格・行動：性格検査，適性検査を実施し，わが身を振り返る 12. 対人関係と社会性：お金持ちになる最適戦略 13. 脳と心の関係性：大脳には心理機能の地図 14. 脳損傷者の機能形成臨床例 15. 総括 		
評価方法	出席 50 点 ， レポート 50 点.		
教材・教科書	なし.		
留意点	心を入れてレポートを書くこと.		

科目名	哲学	科目コード	N11009
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	鎌田 学		
概要	<p>[キーワード:哲学への誘い]</p> <p>近代以降の哲学者たちが追及した諸問題を取り上げ、講義の中で再思考する。</p> <p>講義中、「ワークシート」書くことが求められる。</p>		
到達目標	講義内容に関連した様々な問題について、自分なりに考えをまとめること。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 「自己の根底へ」 3. 「経験論」 4. 「モナド論」 5. 「知識への反逆」 6. 「経験論の臨界」 7. 「理性の深淵へ」 8. 「同一性と差異」 9. 「批判知の起源」 10. 「理念的な次元」 11. 「生命論の成立」 12. 「現象の地平へ」 13. 「語りえぬもの」 14. 「語りえぬもの」② 15. まとめ 		
評価方法	出席(50%)、レポートおよび期末試験(50%)		
教材・教科書	熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』(岩波新書 861円)		
留意点			

科目名	環境論	科目コード	N11010
対象学年	1年	開講学期	後期 30時間
必修・選択	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	北村 繁		
概要	<p>土壌は、はじめからそこにあるものではありません。土壌のある気候条件のもと、大気や植物と物質をやりとりしながら、長い年月かかって形成されていくものです。土壌生成のメカニズムと、熱帯・温帯・乾燥帯の環境下での物質循環を学び、「環境にやさしい」とはどういうことなのかを考えます。</p>		
到達目標	<p>気候環境と森林環境が土壌の形成に与える影響を知り、自然条件により、自然界の物質循環のメカニズムが異なることを理解したうえで、環境問題に対処することの重要性を理解する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 土壌とはなにか・土壌の機能・土壌肥沃性・土壌はなにからできているか① 2. 土壌はなにからできているか② 3. 土壌はどのようにできるのか① 4. 土壌はどのようにできるのか② 5. 土壌のできかたと気候環境① 6. 土壌のできかたと気候環境②・土壌分類 7. 小テスト・熱帯の気候環境と森林 8. 熱帯の土壌と物質循環① 9. 熱帯の土壌と物質循環② 10. 温帯の気候環境と森林 11. 温帯の土壌と物質循環 12. 乾燥帯の気候環境と草原・沙漠 13. 乾燥帯の土壌と物質循環 14. 火山灰土 15. まとめ 		
評価方法	小テスト(選択式)、期末試験(記述式)、出席状況		
教材・教科書	資料配付		
留意点	講義中、指名して、皆さんにいろいろなことを尋ねます(対話法での講義です)ので、心の準備をお願いします		

科目名	生物学	科目コード	N11011
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	村上 修		
概要	<p>生命とは何か、生命の基本的物質であるタンパク質の機能やそれらによって形成される細胞とは何かから始まって、遺伝子とそれをめぐるメカニズム、さらには、ホルモン、癌、免疫など、看護の最も基礎となる生命と人間について学び、合わせて最近の生命工学を通してこれからの生命科学を考える。</p>		
到達目標	<p>21世紀はライフサイエンスの世紀といわれ、マスメディアからはライフサイエンスと密接に関連する多くの情報が発せられている。本講義はこれらを理解するための基礎的素養を養うことを目標とする。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然界におけるエネルギーの流れ、物質循環 2. 地球温暖化 3. 生命の構成要素 4. 細胞の機能と構造 5. 細胞内呼吸 6. ATPの働き 7. メンデル遺伝学 8. 遺伝子の実体 9. 遺伝子の働き 10. 遺伝子工学 11. 発生学 12. 胎生幹細胞とクローン 13. 培養細胞の生物学 (エイジング) 14. 正常細胞と悪性細胞 15. まとめ 		
評価方法	レポートと期末テストにより評価する。		
教材・教科書	講義資料を配布する。		
留意点	講義およびライフサイエンスに関する質問を歓迎する。		

科目名	化学	科目コード	N11012
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	長南 幸安		
概要	人間の生命を理解する能力を身に付けるため、例えばアミノ酸やタンパク質、糖類などの構造や機能を化学的に理解できるようになるために、原子と分子、分子が持っている基本的な概念を学習し、化学の基礎的な法則や原理を習得する。		
到達目標	生命科学の現象や仕組みを化学的考え方や方法によって理解できるようになるために、無機化学・物理化学・有機化学の基本を習得することを目的とします。到達目標は、生命現象を化学的な視点から十分に理解でき説明できるような、基本的な化学の素養を獲得することです。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 化学の基本事項 2. 酸性・塩基性の化学 3. 衣服の化学 4. 洗濯の化学 5. 水の化学 6. プラスチックの化学 7. 料理の化学 8. コロイドの化学 9. 薬の化学 10. 化石資源の化学 11. 身近な材料の化学 12. 電池の化学 13. 電気製品の化学 14. 固・液・気の化学 15. まとめ 		
評価方法	出席状況(20%)+期末試験(80%)とし、総合的に判断し評価します。		
教材・教科書	「身の回りから見た化学の基礎」 芝原寛泰・後藤景子 共著 化学同人		
留意点	毎回の出席を原則とします。 高校で「化学」未履者向けのテキストを使用しますので、未履修者の受講も可能です。		

科目名	統計学の基礎	科目コード	N11013
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	三上 聖治		
概要	<p>色々な統計手法の考えかたや実際の計算方法を習得して看護活動に活かせるように統計学の基礎を学ぶ。人に用いる統計、厚生統計など身近の数字から指標のとり方や度数分布、相関関係、分布の代表値、平均、標準偏差、標準化、標本分布、推定、検定などを理解する</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・尺度について理解することができる。 ・母集団と標本について理解することができる。 ・代表値を計算することができる。 ・検定の手順と方法について実践することができる。 ・看護学関係論文の統計手法について理解することができる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学とは 2. 統計学で扱う用語とデータについて 3. 記述統計と推測統計について 4. 1変数の記述統計 5. 他変数の記述統計 6. 確率論 7. 離散型確率変数 8. 連続型確率変数 9. 母集団と標本 10. 正規母集団の標本分布 11. 点推定と区間推定 12. 仮説検定の手順 13. 質的変数の仮説検定 14. 量的変数の仮説検定 15. まとめ 		
評価方法	レポート(50%)、試験(50%)		
教材・教科書	教科書:看護師のための統計学、共立出版		
留意点	平方根の出来る電卓を用意すること。遅刻は認めない。		

科目名	英語 I	科目コード	N12001
対象学年	1年	開講学期	通年 60時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	渡邊 教一		
概要	英語を必要とする場面に会っても対応できるように初歩的なレベルの文法から学習する。初歩的文法の問題点を明確にし、あわせて英字新聞やCNNのニュース番組などを訳すことなく読み取れるような能力を養う。		
到達目標	教科書は日本と英国を比較考察したものである。異国文化を如何に考え、受け止めるべきなのか。又、日本文化を如何に見つめ直すかについて考えていきたい。		
授業内容	1. 文法力の強化 2. 文法力の強化 3. 文法力の強化 4. 文法力の強化 5. 文法力の強化 6. 文法力の強化 7. 文法力の強化 8. 文法力の強化 9. 文法力の強化 10. 文法力の強化 11. 読解力の養成 12. 読解力の養成 13. 読解力の養成 14. 読解力の養成 15. まとめ	16. 読解力の養成 17. 読解力の養成 18. 読解力の養成 19. 読解力の養成 20. 読解力の養成 21. 異国文化の受容と理解 22. 異国文化の受容と理解 23. 異国文化の受容と理解 24. 異国文化の受容と理解 25. 異国文化の受容と理解 26. 日本文化の見つめ直し 27. 日本文化の見つめ直し 28. 日本文化の見つめ直し 29. 日本文化の見つめ直し 30. まとめ	
評価方法	テストと出席状況で評価(出席点10点、テスト90点)		
教材・教科書	『ちょっとイギリス拝見』(南雲堂)		
留意点	予習をきちんとすることが大事		

科目名	英語 I	科目コード	N12002
対象学年	1年	開講学期	通年 60時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	佐藤 幸正		
概要	英語を必要とする場面に会っても自信を持って対応できるように初歩的なレベルのリスニングから始めます。高校までの授業で英語に興味を持ちながら投げ出してしまうのは、相手の言っていることが聞き取れないという人が多いからですが、なぜ聞き取れないのかの問題点を科学的に分析しながら、リスニングの力をつける練習します。		
到達目標	英語のリスニングが難しいのは、一つには単語が一語一語はっきりと発音されないためです。つまり英語独特の音声変化があるためです。授業ではそうした音声変化に注目し、体系的な練習をします。最終的には英語ニュースや番組などを聞き取れるようになることを目指します。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 英語のリズム 3. 英語のアクセントの特徴 4. 語アクセントと文アクセント 5. 内容語と機能語 6. 機能語の弱化 7. 人称代名詞の弱化 8. 接続詞 and/or の弱化 9. 前置詞 of/for の弱化 10. 助動詞の弱化： could/should/would/etc. + have+過去分詞 11. 聞こえなくなる音 (1)同じ音が続いたとき： [p]+[p]→[(p)p]など 12. (2)似たような音が続いたとき： [d]+[t]→[(d)t]など 13. (3) [t]または[d]の次に [θ] 又は [ð] が来的时候:[t]+[θ]→[(t)θ]など 14. 聞こえにくくなる音：(1)発話末尾の[p]、[t]、[k]、[b]、[d]、[g] 15 (2)アクセントのない音節の母音：about→'boutなど 16. (3)[-nt-]の[t]が聞こえなくなることがある：hunter→hun'erなど 	<ol style="list-style-type: none"> 17.(4)動詞の現在形と過去形の発音が区別しにくいことがある：play baseball→played baseball など 18.つながる音(1)語と語の間で同じ音が連続する：[f]+[f]、[θ][θ] など 19. (2)語尾の子音と次の語の先頭の母音：half a mile, a pair of など 20. 変身する音(1)別の音になる：[t]+[j]→[tʃ] Didn't you? など 21.(2) [t] + [s] → [ts] cats, dates など 22.(3)語尾と子音の前に生じる“L”：channel bottle など 23.(4)側面開放：[t]、[d] + [l] → [tʰ] bottle, little など 24.(5)「たたき音」化する[t]、[d]：water, rider など 25.(6)「たたき音」化する条件 26.(7)添加音：[ns] → [nts]、[nθ] → [ntθ] once, tenth など 27.(8)「鼻腔開放」：[t]、[d] + [n] → [tⁿ] button など 28.(9)有声子音の無声化：have to of course など 29.(10)慣用的な音変化：gonna wanna gotta など 30.まとめ 	
評価方法	出席点(20%)、テスト(80%)		
教材・教科書	編著者 早坂高則・松井秀親 『CD パーフェクト・リスニング』(朝日出版社)		
留意点	出席重視		

科目名	英語Ⅱ	科目コード	N12003
対象学年	2年	開講学期	通年 60時間
必修・選択	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	渡邊 教一		
概要	英字を精読して正確に表現方法を学び、文法力と読解力、英語による意思疎通の基礎的能力を養う。		
到達目標	教科書は英国と米国と日本との比較文化論である。異文化を我々は如何に理解し、また、受容すべきなのか。そして、我々は日本文化を如何に見つめ直すかについて考えていく。		
授業内容	1. 文法力の強化 2. 文法力の強化 3. 文法力の強化 4. 文法力の強化 5. 文法力の強化 6. 文法力の強化 7. 文法力の強化 8. 文法力の強化 9. 文法力の強化 10. 文法力の強化 11. 読解力の養成 12. 読解力の養成 13. 読解力の養成 14. 読解力の養成 15. まとめ	16. 読解力の養成 17. 読解力の養成 18. 読解力の養成 19. 読解力の養成 20. 読解力の養成 21. 読解力の養成 22. 読解力の養成 23. 読解力の養成 24. 読解力の養成 25. 読解力の養成 26. 日本文化の見つめ直し 27. 日本文化の見つめ直し 28. 日本文化の見つめ直し 29. 日本文化の見つめ直し 30. まとめ	
評価方法	テストと出席状況で評価(出席点10点、テスト90点)		
教材・教科書	プリント使用		
留意点	予習をきちんとすることが大事		

科目名	英語Ⅲ	科目コード	N12004		
対象学年	2年	開講学期	後期 30時間		
必修・選択	選択	単位数	1単位		
授業形態	講義	時間割(学生記入)			
担当教員	エドワード・フォーサイス、齋藤 美紀子				
概要	看護・医療のための英語。看護・医療に関連する表現や語彙を理解し、看護臨床場面における会話力を高める。また、医療に関連する英文の読解力を身につける。その具体的な方法として、英語での患者とのコミュニケーション(あいさつ、症状の表現等)について会話の演習を行ってトレーニングする。また、看護・医療に関連した英文を読み、基本的な表現や語彙を身につける。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護・医療に関連する基本的な表現・語彙を身につけることができる。 2. 臨床場面における基本的な会話ができるようになる。 3. 看護・医療に関する平易な英語の文章を読解することができるようになる。 				
授業内容	<p>第1回:オリエンテーション 第2～8回:看護場面における英会話(担当:フォーサイス) 第9～14回:看護関連の英文読解(担当:齋藤) 第15回:授業のまとめと確認</p> <p>【内容】</p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Your first visit? - Asking basic questions 3. Where does it hurt? - Parts of the body 4. Let me direct you. - Giving directions 5. Let's check your height and weight. - Measurements 6. I need some information. - Asking specific questions 7. Please make an appointment. - Time and Negotiations 8. When to take this medicine. - Giving instructions. 9. The Human Body 10. Communicable disease 11. Hygiene and Public Health 12. Risk for Injury 13. Self-care Deficit 14. Respiratory Disorders 15. Summary </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 最初の訪問－基本的な質問をする 3. どこが痛いですか?－身体の各部 4. 案内します－場所を教える 5. 身長と体重をチェックしましょう－計測 6. いくつか教えてほしいのです－特定の質問をする 7. 予約をして下さい－日時を決める 8. いつこの薬を飲むべきですか－指導をする 9. 人間の体 10. 伝染病 11. 個人と公衆の衛生管理 12. 身体の損傷リスク 13. セルフケア不足 14. 呼吸障害 15. まとめと確認 </td> </tr> </table>			<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Your first visit? - Asking basic questions 3. Where does it hurt? - Parts of the body 4. Let me direct you. - Giving directions 5. Let's check your height and weight. - Measurements 6. I need some information. - Asking specific questions 7. Please make an appointment. - Time and Negotiations 8. When to take this medicine. - Giving instructions. 9. The Human Body 10. Communicable disease 11. Hygiene and Public Health 12. Risk for Injury 13. Self-care Deficit 14. Respiratory Disorders 15. Summary 	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 最初の訪問－基本的な質問をする 3. どこが痛いですか?－身体の各部 4. 案内します－場所を教える 5. 身長と体重をチェックしましょう－計測 6. いくつか教えてほしいのです－特定の質問をする 7. 予約をして下さい－日時を決める 8. いつこの薬を飲むべきですか－指導をする 9. 人間の体 10. 伝染病 11. 個人と公衆の衛生管理 12. 身体の損傷リスク 13. セルフケア不足 14. 呼吸障害 15. まとめと確認
<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Your first visit? - Asking basic questions 3. Where does it hurt? - Parts of the body 4. Let me direct you. - Giving directions 5. Let's check your height and weight. - Measurements 6. I need some information. - Asking specific questions 7. Please make an appointment. - Time and Negotiations 8. When to take this medicine. - Giving instructions. 9. The Human Body 10. Communicable disease 11. Hygiene and Public Health 12. Risk for Injury 13. Self-care Deficit 14. Respiratory Disorders 15. Summary 	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 最初の訪問－基本的な質問をする 3. どこが痛いですか?－身体の各部 4. 案内します－場所を教える 5. 身長と体重をチェックしましょう－計測 6. いくつか教えてほしいのです－特定の質問をする 7. 予約をして下さい－日時を決める 8. いつこの薬を飲むべきですか－指導をする 9. 人間の体 10. 伝染病 11. 個人と公衆の衛生管理 12. 身体の損傷リスク 13. セルフケア不足 14. 呼吸障害 15. まとめと確認 				
評価方法	授業参加状況(40点)、筆記試験(60点)				
教材・教科書	・英会話テキスト: English for Nurses by M. Yamanaka & P. Parker. 2005. Asahi Press. ISBN: 978-4-255-15425-1 (Y1700) ・読解は授業時に資料配付。				
留意点	ネイティブスピーカーの教員による英会話の授業が含まれています。英語Ⅱを受講していなくても、この授業は受講することができます。英語に親しみ、楽しく積極的に学んでほしい。				

科目名	ドイツ語	科目コード	N12005
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	選択	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	田中 岩男		
概要	<p>[キーワード: 聞く、話す、書く]</p> <p>ドイツ語の基礎的な運用能力(聞く、話す、書く)を養う。 ドイツ語の学習をとおして、ドイツ人のものの考え方やドイツの文化の一端に触れる。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ごく簡単な日常会話ができる程度のドイツ語コミュニケーション能力の養成 ・基礎的なドイツ語文法の習得 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.アルファベット 2.つづりと発音(1) 3.つづりと発音(2) 4.簡単な挨拶 5.動詞の現在人称変化(1) 6.動詞の現在人称変化(2) 7.疑問文と答え方 8.名詞の性 9.定冠詞と名詞の格変化 10.コーヒーが一杯ほしい/不定冠詞 11.コーヒーが一杯ほしい/所有冠詞 12.こちらザビーネです/不規則動詞 13.何を注文する? /不規則動詞(2) 14.復習とコミュニケーション演習 15.まとめ 		
評価方法	<p>出席状況・授業態度・試験を総合的に評価します。 (平常点(出席点を含む): 50%、試験: 50%)</p>		
教材・教科書	<p>「ドイツ語インフォメーション neu2」(朝日出版社)を教科書として使います。 「やさしい! ドイツ語の学習辞典」(同学社)を推薦します。</p>		
留意点	<p>楽しみながら、新しいことに挑戦するつもりで積極的に参加してください。</p>		

科目名	ドイツ語	科目コード	N12006
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	選択	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	福島 伸雄		
概要	<p>[キーワード: 基本をしっかり] ドイツ語 I の基礎をおさえる。</p>		
到達目標	発音をしっかり覚え、文構造をなりたたせているものを理解する。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. アルファベット 2. 発音 3. 発音の小テスト 4. 第1課(動詞の形) 5. 第2課(名詞の性) 6. 第2課(格変化) 7. 練習問題 1 8. 第3課(定冠詞類と不定冠詞類) 9. 第3課(指示代名詞と疑問代名詞) 10. 第4課(母音の変わる動詞) 11. 第4課(命令形) 12. 練習問題 2 13. 第5課(人称代名詞) 14. 第5課(前置詞) 15. まとめ 		
評価方法	出席点 50 点、試験 50 点		
教材・教科書	『ハンサム ドイツ』高橋泰雄、城間宏朋 著 朝日出版社 『やさしい! ドイツ語の学習辞典』(同学社)を推薦します。		
留意点	辞書をしっかりひいて予習して授業にのぞむこと。		

科目名	日本語表現法	科目コード	N13001
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	井上 諭一 佐々木正晴 今村かほる 鎌田学		
概要	母語である日本語を話すトレーニング、書くトレーニング(複数回の添削指導を含む)を行い、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の日本語表現の基本を学習する。日常生活における実用的な文章の書き方、日常的な正しい会話を習得する。		
到達目標	日本語の表現(聞くこと、話すこと、読むこと、書くことすべて)について、現代の大学生として最低限必要な知識と技術を、受講者全員が共有するようになることが目標である。		
授業内容	<p>《以下は予定です。担当者・内容とも、変更になる場合があります》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 4/5 日本語音声の基礎を学ぶ【今村】 2 4/12 アクセントとイントネーション【今村】 3 4/19 方言と共通語【今村】 4 4/26 短時間の口頭発表(自己紹介)【今村】 5 5/10 資料を使う口頭発表(プレゼンテーションの基礎)【今村】 6 5/17 日本語文章表現の基礎の基礎を学ぶ(禁則処理その他)【井上】 7 5/24 簡単な文章の要約を作る(箇条書きと段落分け)【井上】 8 5/31 複雑な文章から引用しつつ要約を作る(引用の仕方)【井上】 9 6/7 他者の文章に的確なコメントを付す(注記、注釈の仕方)【井上】 10 6/14 文と文との接続関係を明確にする。【鎌田】 11 6/21 与えられたテーマについて構成を考える【鎌田】 12 6/28 実験してそのレポートを書く(その1)【佐々木】 13 7/5 実験してそのレポートを書く(その2)【佐々木】 14 7/12 電子メールと手紙文【井上】 15 7/19 調査(フィールドワーク)とそのレポート【今村】 		
評価方法	担当教員ごとに試験またはレポートにより評価し、回数に比例して重み付けしたうえで合算する。(100点満点)欠席一回につき3点をマイナスする。		
教材・教科書	各担当教員から指示する		
留意点	自学自習を促すため、宿題(課題)を課すことがある。		

科目名	スポーツ科学概論	科目コード	N14001
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	棟方 達也		
概要	スポーツは遊びです。しかしスポーツは現代社会に広く浸透し、文化的生活に影響を与える重要な存在であるばかりでなく、物質的にも精神的にも世界を動かす大きな要因となっています。本講義では、人文・社会科学的側面からスポーツに関する各論を取り上げる。		
到達目標	スポーツの意義を再認識し新たなスポーツ像を見出す。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス及び導入 2. スポーツとは？スポーツ科学とは？ 3. ドーピング問題 4. スポーツと女性 5. スポーツと人物1 6. スポーツと人物2 7. スポーツと人物3 8. スポーツとビジネス 9. スポーツと国際関係 10. スポーツと自然 11. スポーツと数字(記録) 12. 映像資料に見るスポーツ1 13. 映像資料に見るスポーツ2 14. スポーツ時事ネタ 15. まとめ 		
評価方法	試験100点		
教材・教科書	ppt.使用		
留意点			

科目名	スポーツ科学実技 A (バスケットボール A)	科目コード	N14002
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	選択	単位数	1単位
授業形態	実技	時間割(学生記入)	
担当教員	棟方 達也		
概要	<p>[種目の専門的指導を重視して1種目1単位とする種目別選択制を採用しています。]</p> <p>バスケットボールでは、最も基本的な個人の動きからゲームにおける攻防の展開までを論理的に理解しつつ実践を学びます。</p>		
到達目標	<p>バスケットボールという球技を合理的に理解する。</p> <p>チームの一人一人に必ず役割があることをふまえ、技術レベルに関わらずそれを実践しようと努力する</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.ガイダンス 2.受講者レベル確認 3.バスケットボールに必要な基本の動き 4.ボールハンドリング 5.ディフェンス 1 6.ディフェンス 2 7.ディフェンス 3 8.ディフェンス 4 9.オフense 1 10.オフense 2 11.オフense 3 12.オフense 4 13.ゲーム 14.ゲーム 15.まとめ 		
評価方法	出席点:80点 学科(ルール)テスト:20点		
教材・教科書			
留意点	3学部合同で実施 女子のみ受講可 定員 32名 但し、受講者数が10名に満たない場合は開講せず。		

科目名	スポーツ科学実技 B (ウォーキング)	科目コード	N14003
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	選択	単位数	1単位
授業形態	実技	時間割(学生記入)	
担当教員	棟方 達也		
概要	<p>[種目の専門的指導を重視して1種目1単位とする種目別選択制を採用しています。また、アウトドア系種目を積極的に導入しているのが本学の特徴で、集中授業として開講されています。]</p> <p>ウォーキング&ハイキングでは、「歩く」という人間の持つ最も基本的な運動形態の追求ということで、平地での長距離ウォークと起伏のある場所でのハイキング(登山)を実践します。</p>		
到達目標	<p>日常のエクササイズというよりも、アウトドア系レクリエーションとして「歩く」ことを楽しみます。</p>		
授業内容	<p>(1)ウォーキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容 『津軽路ロマン国際ツアーデーマーチ』参加 ・日程 平成25年5月11日(土)～12日(日) ・課題 2日間で合計25km以上になるように各自でコース選択し参加する。 <p>(2)ハイキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容 日帰り登山 2回 ・行先 八甲田山(予定) ・日程 7月以降 日曜祝日または夏休みを利用 <p>※受講希望者は、4月8日(月)5講時に体育館に集合のこと。</p>		
評価方法	出席点:70点 レポート:30点		
教材・教科書			
留意点	<p>イベント参加料(¥1,000)、他実費各自負担</p> <p>定員:10名 ※受講希望者が定員を超えた場合は抽選</p> <p>ウォーキング及びハイキングの全てに参加すること。</p>		

科目名	スポーツ科学実技 C (シーカヤック)	科目コード	N14004
対象学年	1年	開講学期	前期集中 30時間
必修・選択	選択	単位数	1単位
授業形態	実技	時間割(学生記入)	
担当教員	棟方 達也		
概要	<p>[種目の専門的指導を重視して1種目1単位とする種目別選択制を採用しています。また、アウトドア系種目を積極的に導入しているのが本学の特徴で、集中授業として開講されています。]</p> <p>シーカヤックとは、海で漕ぐカヤックのことです。シーカヤックツアーを中心とする海浜野外活動を体験学習します。サバイバルキャンプ形式でのハードでワイルドな2泊3日です。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・シーカヤックの基本操作の習得 ・自然との望ましいつきあい方 ・野外での衣食住と共同生活への順応 		
授業内容	<p>1.ガイダンス及びキャンプの基礎的事項の事前学習</p> <p>2.実習</p> <p>実習地 青森県内又は北海道塩谷海岸 ※受講者数による</p> <p>日程 夏休み中 3日~4日間</p> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸上指導 ・実践練習 ・ショートツアー(1泊) ・キャンプサイト設営と撤収 ・燃料調達 ・食料、飲料水の管理 ・たき火の管理と野外炊事 ・各種海浜野外活動(各自) <p style="text-align: right;">※専門演習 I (棟方ゼミ) 指定科目</p>		
評価方法	出席点:90点 レポート:10点		
教材・教科書			
留意点	<p>定員16名 登録前に担当教員と面談し適正の確認を受けた人のみ受講可。虫が嫌いな人、野外で排泄できない人、食べ物の好き嫌いが激しい人には向きません。登録後、受講費内金として¥20,000 徴収。(注:後日、受講をキャンセルしても内金は返金されません。)</p> <p>受講費総額目安¥45,000 前後 社会福祉学部と合同開講</p>		

科 目 名	スポーツ科学実技 D (スクーバダイビング)	科目コード	N14005
対 象 学 年	1 年	開 講 学 期	前期集中 30 時間
必 修 ・ 選 択	選択	単 位 数	1 単位
授 業 形 態	実技	時間割 (学生記入)	
担 当 教 員	棟方 達也		
概 要	<p>[種目の専門的指導を重視して 1 種目 1 単位とする種目別選択制を採用しています。また、アウトドア系種目を積極的に導入しているのが本学の特徴で、集中授業として開講されています。]</p> <p>この授業では、スクーバダイバー認定コースを受講することで、スクーバダイビングを通じての海浜(海洋)野外活動を学びます。ダイバーに認定されると「C カード」という世界共通の認定カードが取得でき、さらにスキルアップして各種ダイバー資格を取得するための第一歩となります。</p> <p>※ ※既にダイバー認定を受けている人で上位コース(アドバンス等)の受講を希望する人へも対応しますので相談して下さい。</p>		
到 達 目 標	NAUI(National Association of Underwater Instructors)スクーバダイバー認定		
授 業 内 容	<p>NAUI スクーバダイバー認定講習プログラム</p> <p>日程:夏休み中 3~4 日間</p> <p>実習地 青森県岡崎海岸または北海道美国町 ※受講者数による</p> <p>[内容] 学科講習(学科試験含む)及び海洋実技講習</p>		
評 価 方 法	スクーバダイバー認定:100点 それ以外の場合は、受講状況と結果による。		
教 材 ・ 教 科 書	所定の教材セットを配布(受講費に含まれます)		
留 意 点	泳げること。登録前に必ず担当教員と面談し適性の確認を受けること。登録後、受講費内金として¥20,000 徴収。(後日キャンセルしても返金されません。)受講費総額¥42,000~¥57,000 前後(実習地による)		

科目名	スポーツ科学実技 E (スノースポーツ)	科目コード	N14006
対象学年	1年	開講学期	後期集中 30 時間
必修・選択	選択	単位数	1 単位
授業形態	実技	時間割 (学生記入)	
担当教員	棟方 達也		
概要	<p>[種目の専門的指導を重視して 1 種目 1 単位とする種目別選択制を採用しています。また、アウトドア系種目を積極的に導入しているのが本学の特徴で、集中講義として開講されています。]</p> <p>スノースポーツでは、スキーまたはスノーボードを選択し、各自のレベルに応じたグループ指導によりスキルアップを目指します。雪国の大学でスノースポーツを習得し、生涯スポーツとしてよりいっそう楽しめるようになりましょう。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で楽しい技術の習得 ・スノースポーツの楽しさの理解 		
授業内容	<p>1.事前ガイダンス(12月)</p> <p>2.実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習地:安比高原スキー場 ・日程:原則として冬休み中 2泊3日 (降雪状況等により延期あり) 		
評価方法	実習参加状況 100%		
教材・教科書			
留意点	<p>履修登録後、受講費内金として¥20,000 徴収。(注:キャンセルした場合、返金されません)受講費総額(内金含む)目安¥40,000。3学部合同開講</p> <p>※受講者数次第では、実施形式の変更または開講しない場合もあります。</p>		

科目名	スポーツ科学実技F (バスケットボールB)	科目コード	N14007
対象学年	1年	開講学期	前期集中 30時間
必修・選択	選択	単位数	1単位
授業形態	実技	時間割(学生記入)	
担当教員	棟方 達也		
概要	<p>[種目の専門的指導を重視して1種目1単位とする種目別選択制を採用しています。]</p> <p>バスケットボールでは、最も基本的な個人の動きからゲームにおける攻防の展開までを論理的に理解しつつ実践を学びます。</p>		
到達目標	<p>バスケットボールという球技を合理的に理解する。</p> <p>チームの一人一人に必ず役割があることをふまえ、技術レベルに関わらずそれを実践しようと努力する。</p>		
授業内容	<p>(1)ガイダンス (2)基礎知識 (3)実技</p> <p>①基本動作(フットワーク、ボールの扱い 等) ②基本技術(パス、キャッチ、ラン、シュート) ③応用実技(Defense Offense Game)</p> <p>日程:9月12日～14日(予定)</p>		
評価方法	出席点:80点 学科(ルール)テスト:20点		
教材・教科書			
留意点	原則として男子のみ受講可。ただし、女子でも部活動経験等により男子の運動量についていける自信がある者は受講可。3学部合同開講 定員32名 受講者数が10名に満たない場合は開港せず。		

科目名	人間関係論	科目コード	N15001
対象学年	1年	開講学期	前期 15時間
必修・選択	選択	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員			
概要	詳細については初回の講義でお知らせします。		
到達目標			
授業内容			
評価方法			
教材・教科書			
留意点			

科目名	社会生活とマナー	科目コード	N15002
対象学年	1年	開講学期	前期 15時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	榎引 美代子		
概要	<p>社会生活および看護活動において、マナーの心得はよりよい人間関係を築くために必要なことである。日本文化の中で培われた礼儀、慣習を見直し、望ましい礼儀と接遇についての知識と態度を習得する。</p> <p>日常生活、および演習・実習の場において、意図的に礼儀、接遇技術を実践できるように学習する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 礼儀、マナーの概念を理解できる。 2. 日本文化と礼儀を理解できる。 3. TPO を考えて、挨拶ができる。 4. 接遇知識と態度を習得する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. マナーとは、礼儀の基本 2. 挨拶、敬語、言葉選びの留意点 3. 社会生活と慣習 4. 訪問時のマナー・接遇 5. 電話の応対 6. 食事のマナー 7. 演習 8. 演習 		
評価方法	<p>2/3 以上の出席者について 出席状況と受講態度 60%、演習における実践 20%、レポート 20%</p>		
教材・教科書	随時、資料を配布する。		
留意点	社会人となるための基礎的知識と態度を学び、看護学実習・日常生活において活用できる基礎分野である。		

科目名	海外研修	科目コード	N15003
対象学年	1～4年	開講学期	集中 60時間
必修・選択	選択	単位数	2単位
授業形態		時間割(学生記入)	
担当教員	エドワード・フォーサイス		
概要	オリエンテーションの際にお知らせします。		
到達目標			
授業内容			
評価方法			
教材・教科書			
留意点			